

休会通信⑥

幹事報告

R2.5.27(水)

幹事 櫻井

「それでは、2019～2020 年度 第 32 回 通算 1961 回 幹事報告を致します。」

一、障害者支援施設「あかりの家」より、施設長就任のご挨拶が届いております。

以上、報告致します

## 会長の時間

### 「海外」

「海外」っていう表現が通じないことが多い。外国人と話していると「海外？海の向こう？なにそれ？」と言われる。なぜかという、彼らにとって「海外」なんていう言葉は一般的ではないからだ。国と国は陸で繋がっており、国と国を隔てるのは国境ではない。内陸国の人にとって海外なんていう言葉は、どこか別世界の言葉のように思えるだろう。「海外？海の向こう？なにそれ？」である。

日本は島国だから、海外と言えば外国を指す。まさか海外と言って沖縄を意味することはないだろう。北海道沖縄あたりを区別するとしたら、内地、外地あたりの言葉だろうか。海外と言えばやはり外国であり、海外という言葉は海岸線が国境に相当する島国特有の表現に過ぎない。

英語には overseas call という表現がある。国際電話という意味だが、この表現は日本人ならわかりやすいが、イギリス以外のヨーロッパ諸国では通じにくい。実際私も携帯電話などがなかった数十年前、ヨーロッパのホテルのフロントで、I want to make an overseas call が伝わらなかった。後で考えたらヨーロッパには海に面していない国も多くある。International telephone という言葉を使うべきだった。イギリスも島国なので英語にも「海外」「overseas」という表現があるのだろう。島国の人間以外に「海外」は通用しない。海を隔てた向こうにある別世界、という意味合いの強い「海外」という言葉は、内側である島とそれ以外を隔てる言葉である。島国の人間にとっては島こそが世界であり、島の外は別世界であるという認識が「海外」という表現に込められている。事実そうではなかろうか？陸続きの国々と同様に、隣の国を身近に感じているだろうか。所詮海の向こうの出来事だと思っている。

今回の新型コロナウイルス感染症も最初は遠い「海外」の話と思っていたが、あっという間に日本でも広がった。それだけ世界の距離は縮まっているということなのだろう。「海外旅行」も「国際旅行」というべきなのか。しかしピンとこない。

さて、緊急事態宣言も解除されました。6月3日から例会を再開します。

ご出席をお願いします。

佐野栄作